5　義和団賠償金返還問題

841　昭和5年1月17日　在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

王外交部長の東方文化事業に関する汪・出淵協定改訂申出について

付　記　昭和四年十二月二十六日作成

「対支文化事業ニ関スル支那公使申出ノ件」

南　京　1月17日前発
本　省　1月17日前着

公第一一號（極秘扱）

往電第七號ニ關シ

王部長ハ條約問題ニ次テ第二ノ交渉問題ハ團匪賠償金ノ處分問題ナリ御承知ノ通現在ノ取極ニ依ル支那側委員其ノ任ニアルモノナク事業ノ進行ハ全部日本ノ手ニ依リ動カサレ居ル次第ナルニ依リ右現在ノ取極ヲ改訂スルコトトシタシト述ヘタルニ依リ本官ハ支那政府カ委員ノナクナル樣措置セラレタルハ遺憾ナルニ付現在ノ取極ニ依リ先ツ委員ヲ任命シ日本ト協力スルコト先決問題ニアラスヤ恐クハ日本側トシテハ從來ノ取極ヲ變更スルハ余程困難アルヘシト述ヘ本問題ニ付テハ今日余リ深入スルヲ避ケ置キタリ

尙王ハ右會談ノ際英國ニ對シテモ同樣ノ意向ヲ示シ支那側ハ大体其ノ目的ヲ達スルコトトナリタルカ其ノ要旨ハ賠償金ヲ一旦支那側ノ手ニ收メ其ノ支途ニ付テハ大体了解ヲ遂クルモ差支ナシトノ意向ナル旨ヲ述ヘ居タリ

支ニ轉電セリ

（付　記）

對支文化事業ニ関スル支那公使申出ノ件

昭和四年十二月二十六日汪支那公使亞細亞局長來訪本國政府ヨリ「對支文化事業ニ付テハ民國十三年二月及十四年五月日支間ニ取極メノ次第アルモ支那國内ニ於テハ當時ヨリ右取極ニ反對アリシ次第ナリ今回國民政府ハ民論ニ鑑ミ又其他ノ事由ニ顧ミ右取極ヲ廢止スルコトヲ日本ニ提議シ同時ニ庚子賠償金ハ支那ニ返還サレンコトヲ要求スルコトニ決定シタリ就テハ日本政府ニ對シテ右協定ノ廢止ヲ提議シ交渉スヘキ」旨ノ訓令ニ接シタリト述ヘタルニツキ亞細亞局長ハ大臣ニ報告ノ上何分ノ回答スヘキ旨答ヘ置キタリ

其ノ節汪公使ハ全然私見トシテ對支文化事業ハ其ノ性質上主トシテ日本ニ於テ若シクハ日本ニ關シテ施設スルコトト支那ニ於テ若クハ支那ニ關シテ施設スルコトトノ二樣ニ有ルヘキニ依リ例ヘハ資金ヲ二分シテ前者ニ對シテハ日本ガ後者ニ付テハ支那カ主トシテ施設經營管理スルコトニセハ如何カト思フ旨述ヘ居タリ

（昭和四年十二月廿六日記）

842　昭和5年1月18日　在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

周司長に対し東方文化事業が特別法規を以て議会通過した関係上現行協定変更不可能と説明について

上　海　1月18日後発
本　省　1月18日後着

公第二一號

南京發閣下宛往電公第一一號ニ關シ

王部長ハ右談話ノ際本件ニ付テハ周司長カ特ニ好ク承知シ居レリト述ヘタルカ十七日夜宴會ノ後周ヨリ詳細ノ話アリタルニ付本官ハ本件ニ付テハ王部長ニハ單ニ現在ノ取極ノ改訂ハ非常ニ困難ナル旨ヲ述フルニ止メ置キタルカ御承知ノ通東方文化事業ナルモノハ特別會計ニシテ特別法規ヲ以テ議會ヲ通過シ居ル關係上單ニ手續問題ヨリ言フモ之ヲ變更スルコト殆ト不可能ニ近シ就テハ此等困難ナル事業ハ貴方ニ於テモ充分研究シ見ラルル必要アルヘシト述ヘ事情ノ困難ヲ强ク印象シ置ケリ

北平、南京ヘ轉電セリ

843　昭和5年1月(21)日　在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

義和団賠償金返還問題交渉に関する今日までの経過につきランプソン英国公使の談話報告

上　海　発
本　省　1月21日後着

公第三八號

團匪賠償金處分問題

英國公使ハ實ハ客年六月王部長ト自分トノ間ニハ本件ニ付殆ト談合纏リタルカ其ノ要點ハ支那政府ノ任命スル guard（編注）

of trustee（其ノ人數等ハ定マリ居ラサルモ英國側ノ代表者ヲモ含ム）ヲ作リ之ニ右返還金ノ處分ヲ託シ尚使用ノ目的ハ教育事業トスルモ實際上ハ鐵道材料購入ノ借款ニ應シ右借款ノ利子ヲ以テ教育事業費ニ當テムトノ趣旨ナリ右協定ハ殆ト出來上リ最後ニ之ニ關シ請訓中孫科ヨリ新シキ項目ノ申出アリタル爲已ムヲ得ス之ヲ許可シタル處案ノ如ク政府ハ右ヲ承諾（編注二）セスシテ物分レトナリ今日ニ及ヒタルモノニシテ支那側トシテハ全ク之カ解決ノ機會ヲ失ヒタルモノト謂フヘシ

而シテ今日ニ於テハ英國政府ハ以前ヨリモ寧ロ強硬ナル案ヲ持シ居ル次第ナリト述ヘタリ

支、南京、奉天ヘ轉電セリ

編注一　「guard」の箇所に「Bond?」との書き込みあり。

編注二　「セス」は後にベン書で加筆されている。

844　昭和5年1月23日　有田亜細亜局長より汪中国公使宛

中国側の東方文化事業に関する現行協定廃止並び義和団事変賠償金返還方提議に関し応諾出来ない旨回答

団匪賠償金返還方等ニ関スル汪支那公使ノ照會ニ對スル亜細亜局長回答（昭和五年一月廿三日）

對支文化事業ニ関スル日支両國間ノ取極ノ廢止竝團匪賠償金返還方ニ関スル貴國政府ノ提議ハ大臣ニ報告シタル處大臣ハ左ノ如ク回答方下命セリ

本提議ニ関シテハ考慮ヲ加ヘタルモ遺憾乍ラ之ニ應諾スルコトヲ得ス東方文化ノ世界文明史上ニ於ケル地位ニ関シテハ茲ニ多言ヲ要セサル次第ニシテ日本政府ハ東方文化ノ研究發揚ヲ特ニ重視シ日支両國共同ノ責任トシテ之カ達成ヲ期スルノ要アルヲ痛感ス、斯クテ日本政府ハ右目的ノ爲ニ團匪賠償金其他ノ収入ヲ投スルコトニ決シ貴我両國ノ政局ヨリ全然獨立シテ東方文化事業ヲ遂行スルカ爲帝國議會ノ協贊ヲ経テ對支文化事業特別會計法ノ制定ヲ見ルニ至リ又右事業ノ遂行ニ関聯シテ両國間ノ協定モ成立シタリ日本政府ハ終始此ノ方針ヲ守リ諸般ノ文化事業等ヲ忠実ニ實施シ来リタルカ此ノ日本ノ誠意ハ支那側ニ於テモ充分諒解セラルヽコトヽ思惟ス隨テ日本政府ハ此ノ方針ヲ變更スルノ意

思ヲ有セス然レドモ協定ノ運用ニ関シ日支両國間ノ協調ヲ一層円滑ニスルカ爲更ニ協議スルコトニ関シテハ敢テ異議ヲ挾ムモノニアラス

845　昭和5年1月29日　有田亜細亜局長　汪中国公使　会談

東方文化事業問題に関する会談要旨

對支文化事業ニ關スル汪公使ト有田亞細亞局長ノ會見談

昭和五年一月二十九日汪支那公使亞細亞局長來訪文化事業ノ問題ニツキ過般御返事ノ趣本國政府ニ報告シタル處日支間聯絡ノ方法ニ付キテハ更ニ協議ニ應シ差支ナシトノ日本政府ノ回答ハ不十分ナルニツキ更ニ前回訓電ノ趣旨ニ依ツテ交渉スヘシトノ趣來電アリタリトテ前回ノ趣旨ヲ繰返シ説明シタルニ付亞細亞局長ハ實ハ前回支那政府申出ハ團匪賠償金ノ還附ト大正十三年及十四年ノ協定廢止ニシテ其理由トスル處ハ支那ノ國權ヲ侵害ストノ點ニ存スル處自分等ノ見ル處ニ依レハ國權侵害ノ問題トハ何等ノ關係ナシト信ス元來團匪賠償金ハ條約ニ依リ日本カ當然ニ支那側ヨリ領收スル權利ヲ有スルモノニシテ日本政府カ其ノ處分方法ヲ如何ニスルモ他國ノ主權ヲ侵害スルコト無カルヘキ筈ナリ然レトモ若シ右金額ノ使用ノ方法ニツキ不都合ノ事アラハ國權侵害ノ問題起ルコト無シトセサルモ團匪賠償金ノ使途ハ教育、學藝、衞生、救恤其ノ他文化ノ助長ニ關スル事業ニ限ラレ居リ之等ノ事業タルヤ何國ニ於テ之ヲ行フモ其國ノ國權ヲ侵害スルモノニ非サルコト明瞭ナルノミナラス事實問題トシテモ日本ニ於テハ外國ノ此種事業ヲ容認シ居リ又英、米、佛等ノ諸國内ニ於テモ外國ノ此種ノ施設ヲ容認シ居ル有様ニシテ何等國權侵害ノ問題ヲ起シ居ラス況ヤ對支文化事業ノ施行ニツキテハ日支間ノ圓滿ナル協調ヲ實現スルタメニ支那側ヨリモ委員ヲ撰任シ居ルカ如キ狀況ナルヲ以テ如此國權侵害云々ハ全然自分等ノ諒解シ得サル處ナリ從ツテ之ヲ前提トスル支那側ノ申入ニハ應シ難キ次第ナリ之等ノ點ニツキ誤解無キ様再ヒ國民政府ニ報告ヲ希望スト述ヘタリ

尚汪公使ヨリ右日本側ノ主張ハ重光代理公使ヲ經テ南京政府ニ充分説明セシメラレタキ旨希望アリタルニツキ亞細亞局長ハ之ヲ了承シ置キタリ

846　昭和5年3月17日　在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

王部長の義和団事変賠償金管理要求に対し現行制度変更の手続困難なる旨を述べ其の貫徹方不可能を暗示したことについて

上　海　3月17日後発
本　省　3月17日後着

公第三一九號

十七日會見ノ際王部長ハ團匪賠償金ノ問題ニ關スル英米トノ取極同様資金ノ返還ヲ求メ管理委員會ヲ支那側ニ於テ任命シタキ次第ニシテ資金ノ用途ハ現在ノ通ニ定ムルモ差支ナキ次第ナリト語リ種々從來ノ説明ヲ繰返シタルカ本官ハ右ハ要スルニ實質ニ於テハ現在ト同様ニシテ唯其ノ主人公カ日本タルヤ支那タルヤノ問題ニ歸著シ仕事及内容ハ今日ト大差ナキニアラスヤ右主義問題ノ變更ヲ考量スル前ニ現制度ヲ變更スル手續上大ナル困難アルコトニ注意セサルヘカラストテ更ニ支那側ヨリ本問題ヲ持出スモ其ノ貫徹ノ困難ナルヘキヲ暗示シ置ケリ

南京ヘ暗送セリ

847　昭和5年4月15日　有田亜細亜局長汪中国公使　会談

東方文化事業中止に関する申出について

對支文化事業ニ關スル支那公使申出ノ件

昭和五年四月十五日汪支那公使有田亞細亞局長ヲ來訪本國政府訓令ニ依ル趣ヲ以テ東方文化事業總委員會及上海委員會ノ支那側委員ハ目下辭職缺員トナリ居レルニ就テハ此際暫ク文化事業ヲ中止セラレ度旨申出タルヲ以テ有田局長ハ右ニ對シテハ一存ニテ回答シ得サルヲ以テ上局ニ傳達シ置クヘキ旨ヲ答ヘ尚私見トシテ本問題ニ關シテハ先頃モ申述ヘタル通ニテ現在ノ組織ニ達セル文化事業ノ資金ヲ支那側ニ移轉スル如キハ不可能ナルカ其ノ運用ニ關シ支那側希望ヲ取入レ何等改訂ヲ行フ如キハ考慮ノ餘地無キニ非ス當方トシテハ今後引續キ此ノ方針ニテ本問題ヲ取扱フノ外無シト思考スルト同時ニ支那側委員辭職セリトテ漫然目下取掛リ居ル事業ヲ中止スル如キハ困難ナルヘキ旨述ヘ置キタリ

848　昭和5年4月(24)日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

義和団賠償金を鉄道建設等の生産事業に充当するとの返還協定内容に関するランプソン英国公使の説明について

南　京　発
本　省　4月24日後着

第三六六號

往電第三六四號「ランプソン」トノ會談ノ際本官ヨリ團匪賠償金ノ成行ヲ尋ネタルニ「ラ」ハ本件ハ其ノ後種々交渉ノ結果本年二月自分ノ南京滞在中「イニシアル」シタルカ未タ議會ノ協贊ヲ得サル爲其ノ儘トナリ居ルモ次回南下ノ際ハ多分正式調印ヲナシ得ヘキ旨ヲ述ヘ右協定ノ内容トシテ大要左ノ通説明セリ

一、協定ハ公文交換ノ形式ニテ先ツ支那側ヨリ團匪賠償金ノ英國側受領分ハ之ヲ英支混合委員ヨリ成ル教育財團ニ交付シ元本ハ鐵道ノ建設其ノ他ノ生産事業ニ充當スルコトトシ度旨申越シ

二、英國側ヨリ右申出ハ異議ナキモ一九二二年以來蓄積セル金額（約三百萬「ポンド」）ヲ鐵道建設ニ充當スル際ニハ其ノ建設材料ハ英國ニ於テ購入スルコト調印後ノ毎月受入ハ之ヲ二分シ半分ノ使用ニハ條件ナキモ他ノ半分ヲ鐵道建設ニ使用スル際ハ材料ヲ英國ニ於テ購入スルコトトセルモノニテ即チ本協定ノ骨子ハ要スルニ賠償金ノ全額ヲ教育財團ニ交付シ同財團ヨリ貸與ノ形式ニテ元本ヲ支那政府ノ鐵道其ノ他ノ建設費用ニ充テ貸付ヲ受ケタル側ヨリ利子ヲ財團ニ支拂ヒ右利子ヲ以テ教育資金ニ充當セントスルモノナリ云々

上海、支、奉天ヘ轉電セリ

849　昭和5年5月4日　在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

王外交部長が日本分義和団事変賠償金返還協定草案を手交について

別　電　五月三日発在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛公第四四〇号
日本分義和団賠償金協定草案

上　海　5月4日後発
本　省　5月4日後着

公第四三九號

三日王正廷ニ會見ノ際王部長ハ團匪賠償金問題ニ付テ東京ニ於テ支那公使ヨリ新ニ申入ヲ爲サシムルコトトナリ大要ハ汪公使ニ電報シ詳細ハ郵報シ置ケリ依テ右草案寫ヲ御參考ノ爲差上クヘシトテ別電第四四〇號譯文ノ如キ支那文寫ヲ手交セリ右ニ對シ本官ハ本件ハ要スルニ東京ニテ支那公使ヲシテ直接日本政府ト交渉セシメントスルモノニシテ本官ニハ單ニ參考ノ爲草案寫ヲ交付セラルル意味ナリヤト問ヒタルニ王部長ハ然リト答ヘタリ

前述ノ如ク汪公使ニ訓令シ置キタル次第ナルモ念ノ爲貴方ヨリモ本草案寫ヲ日本政府ニ御報告願（ハレ）間敷ヤト述ヘタルニ付本官ハ不取敢右書類ハ之ヲ拜見シ置クヘシト答ヘ置ケリ就テハ不日汪公使ヨリ何等申出アルヤモ知レサルニ付御含ヲ請フ

別電ト共ニ北京、南京ヘ轉電セリ

（別　電）

上　海　5月3日後発
本　省　5月4日後着

公第四四〇號

日本返還ノ團匪賠償金協定草案

中日兩國政府ハ東亞文化ノ發展ト兩國ノ邦文（編注）ヲ鞏固ニスル爲双方同意ノ上民國十三年二月六日及十四年五月四日締結セル日本對支文化事業協定及交換公文ヲ改訂ス

一、日本ハ一九二二年十二月以後ノ項下ノ團匪賠償金全部ヲ支那ニ返還シ支那ノ教育文化ヲ辨理スルニ用ユルコトヲ承諾ス

二、支那政府ハ日本ノ返還スル團匪賠償金ヲ管理支配スル爲日支團匪賠償金委員會ヲ組織シ同時ニ日本人若干名ヲ聘シテ委員トナス

三、日本返還ノ團匪賠償金ノ用途ハ次ノ如ク分配スヘシ

甲、該賠償金ノ大部分（約三分ノ二）

イ、支那ノ營利建設事業ニ用ヒ教育基金トナスコトヲ得卽チ所得ノ利益ヲ以テ教育文化ヲ辨理ス

ロ、借款ノ形式ニテ中國建設機關ニテ借用シ實業ヲ經營ス卽チ所得利益及返還ノ元金ヲ以テ教育文化ヲ辨理ス

乙、該賠償金ノ其ノ他ノ部分（約三分ノ一）ハ直接教育文化ヲ辨スル用ニ當ツ

但シ計畫實行セラルル教育文化事業ハ既ニ支那カナシツツアル文化事業ト重複セサルモノニ限ル

四、留日支那學生補助ノ學費修學年限ハ從來ノ通リ辨理（十年ヲ以テ限リトス）此ノ項ノ補助費ニシテ既ニ支出セルモノハ委員會ヨリ酌量追認シ今後ノ分配及其ノ缺額ノ選補ハ總テ留日支那學生監督ニ於テ主管シ從來ノ選拔費ノ名儀ヲ取消ス

五、本協定ハ調印ノ日ヨリ效力ヲ發生ス

編　注　当該「文」の箇所に「交」との書き込みあり。

850　昭和5年5月9日　幣原外務大臣　汪中国公使　会談

汪中国公使の帰国挨拶に際し日本の漸進的対中国政策と義和団賠償金問題に関する会談要旨

幣原大臣汪支那公使會談要旨

昭和五年五月九日汪支那公使歸國挨拶ノ爲幣原大臣ヲ來訪ノ際今回ノ歸國ニ當リ何等承ルヘキコトアラハ拜聽シタシト述ヘタルヲ以テ大臣ハ我方ニ於テハ御承知ノ如キ既定ノ對支方針ニ依リ着々實行ニ入ラントシツツアル次第ニ付支那側ニテモ之ニ對應セラルル方針ヲ執ラルル樣致度支那側ニシテ無理解ノ態度ニ出テ我方立場ヲ無視スル如キコトアラハ自然我方方針ノ遂行ニモ故障出テ兩國ニ取リ甚タ不本意ノ結果ヲ來スヘキニ付此ノ點ハ支那政府ニ於テモ充分諒解セラルル樣致度旨ヲ告ケタリ

次テ汪公使ハ團匪賠償金返還問題ヲ持出シタルニ付大臣ハ現行法律ヲ變更スルカ爲メニハ議會ヘ提案セサルヘカラサル處一部國民ハ日本ハ支那ニ對シ如何ナルモノヲモ殆ト無制限ニ讓歩セムトシツツアリトノ感想ヲ抱キ居ル際ナルヲ以テ團匪賠償金返還ヲ議會ニ提案スルモ之ヲ納得セシムルコト殆ト不可能ナリ若シ議會ニ提案シテ種々ノ論議ヲ惹起シ結局否決セラルルカ如キコトアラハ其ノ影響ハ蓋シ恐ルヘキモノアルヘキカ故ニ法律ヲ變更セサルヘカラサルカ如キコトハ此ノ際企圖セサルヲ可トス只法律ヲ變更セサル範圍内ニ於テ支那側ノ希望ヲ容レ制度ニ變改ヲ加フルコトニ付テハ出來得ル丈御相談ニ應スヘシトノ趣旨ヲ答ヘラレタリ

編注 本会談要旨については五月十六日発幣原外務大臣より在中国重光臨時代理公使宛電報公第二四五号で伝えられている。

851 昭和5年6月18日 汪中国公使より 幣原外務大臣宛

日本分義和団賠償金返還協定草案の送付について

午字第二二七号 密 （6月19日接受）

敬啟者關於中日庚欵問題疊經與有田亞細亞局長坪上文化事業部長先後商談並報告本國政府在案茲接外交部來文附到擬訂日本退還庚欵協定草案一件囑請求

貴國政府同意合将該項草案隨函送達請煩

貴大臣察閲見復不勝感荷敬頌

勛祉

右致

日本外務大臣男爵幣原喜重郎閣下

中華民國特命全權公使汪榮寶〔印〕

中華民國十九年六月十八日〔印〕

日本退還庚欵協定草案

中日兩國政府為發展東亞文化并鞏固兩國邦交起見雙方同意将民國十三年二月六日及十四年五月四日所商訂之日本對華文化事業協定及換文加以改訂

一日本允将一九二二年十二月起之日本項下庚欵全部退還中國以為辦理中國教育文化之用

二中國政府為管理支配日本所退還之庚欵組織中日庚欵委員會並聘任日本人若干名為委員

三日本所退還庚欵之用途應支配如下

甲 該欵之大部分（約三分之二）

1得用以辦理中國之生利建設事業作為教育基金即以所得贏利辦理教育文化

2得以借欵方式借由中國建設機關經營實業即以所得之利及所還之本辦理教育文化

乙 該欵之其他部分（約三分之一）直接撥充辦理教育文化之用

但所擬舉辦之教育文化事業以不與中國已辦之文化事業相重複者為限

四補助留日中國學生學費數目年限可仍照原議辦理（以十年

為限）此項補助費之前經支出者應由委員會酌予追認其以後之分配及其缺額之選補概由中國留日學生監督主管原有之選拔費名義應取消

五本協定自簽訂之日起發生效力

（右訳文）

（昭和五年六月十八日附支那公使来翰別紙）

日本返還團匪賠償金協定草案

日支兩國政府ハ東亞文化ノ發展ト兩國國交鞏固トノ爲双方同意ノ上民國十三年二月六日及十四年五月四日締結セル日本ノ對支文化事業協定及交換公文ヲ改訂ス

一、日本ハ一九二二年十二月以降ノ日本分團匪賠償金全部ヲ支那ニ返還シ以テ支那ノ教育文化ヲ辨理スルノ用トナスコトヲ承諾ス

二、支那政府ハ日本ノ返還スル團匪賠償金ヲ管理支配スル爲日支團匪賠償金委員會ヲ組織シ並ニ日本人若干名ヲ聘シテ委員トナス

三、日本返還ノ團匪賠償金ノ用途ハ次ノ如ク分配スヘシ

甲、賠償金ノ大部分（約三分ノ二）

1、支那ノ營利建設事業ヲ辨理スルニ用ヒ教育基金トナスコトヲ得卽所得ノ利益ヲ以テ教育文化ヲ辨理ス

2、借款ノ形式ヲ以テ支那建設機關ニテ借用シ實業ヲ經營スルコトヲ得卽所得ノ利益及返還元金ヲ以テ教育文化ヲ辨理ス

乙、賠償金ノ其他ノ部分（約三分ノ一）ハ直接教育文化ヲ辨理スルノ用ニ充當ス但施行セムトスル教育文化事業ハ支那既設ノ文化事業ト相重複セサルモノニ限ル

四、日本留學支那學生學資補助金額年限ハ從來通リ辨理スヘシ（十年ヲ以テ限リトス）本項補助費ニシテ既出分ハ委員會ニ於テ酌量追認スヘク今後ノ分配及其缺額ノ選補ハ總テ支那留日學生監督ニ於テ主管シ從來ノ選拔費ノ名義ハ取消ス

五、本協定ハ調印ノ日ヨリ效力ヲ發生ス

852 昭和5年7月26日 幣原外務大臣より 汪中国公使宛

汪公使提出の義和団賠償金返還協定草案に不同意の旨回答

付　記　作成年月日不明

「汪公使ノ提出ニ係ル日本ノ団匪賠償金返還ニ関スル協定草案ニ対スル我方ノ見解」

文化一機密第八六号

昭和五年七月二十六日

外務大臣男爵　幣原　喜重郎

在本邦

汪榮寶支那公使

團匪賠償金返還協定草案ニ関スル件

以書翰致啓上候陳者本年六月十八日附貴信午字第二二七號ヲ以テ御送付相成候貴國外交部ノ日本分團匪賠償金返還協定草案閲悉致候右草案ノ要旨ハ團匪賠償金ヲ貴國政府ニ返還スルコト、該賠償金監理ノ爲日支團匪賠償金委員會ヲ組織シ日本人若干名ヲ委員ニ加フルコト及該賠償金ハ之ヲ教育文化ノ事業ニ充ツヘキモ之カ利殖運用上其ノ三分ノ二ヲ營利的建設事業ニ投スルコトノ三點ニ有之候按スルニ東方文化ノ研究發揚ハ東方民族當然ノ使命ニシテ貴我兩國ハ之カ遂行ヲ圖ルノ共同責務ヲ有スルノミナラス文化事業ノ本質ニ鑑ミ國境ヲ超越シ又當面ノ政治、外交上ノ見地ヲ離脱シ高遠ノ理想ニ向ツテ邁進スルノ要アルハ多言ヲ俟タサル處ニ有之候斯テ文化事業ノ恒久性ヲ保障スル爲政局ヨリ全然獨立セル制度ヲ確立スルノ必要アリ文化事業特別會計法ハ此ノ趣旨ニ基キ帝國議會ノ協贊ヲ經テ制定セラレ次テ兩國政府間ノ協定ニ依リ具體的ニ事業ノ大綱ヲ定メ且貴我同數ノ委員ヨリ成リ貴國人ヲ委員長トスル東方文化事業總委員會及上海委員會成立セル次第ハ疾ク御承知ノ通リニ有之候今ニ至リテハ若シ貴國提案ノ如ク現行制度ニ根本的變更ヲ加フルニ於テハ文化事業ノ基礎ヲ動搖セシメ其ノ目的達成上多大ノ支障ヲ招來スヘキヲ虞ルル次第ニ有之候

敍上ノ理由ニ基キ帝國政府ハ今次ノ貴國政府ノ提案ニ乍遺憾同意ヲ表スル能ハサルモ豫テ有田亞細亞局長及坪上文化事業部長ヲ通シテ閣下ニ申入置キタル如ク現存協定ノ運用ニ關シ貴我兩國間ノ協調ヲ一層圓滑ナラシムルノ目的ヲ以テ更ニ商議ヲ重ヌルコトニ關シテハ何等異議ヲ挾ムモノニ無之例ヘハ貴國政府提案ノ末項ニ掲ケラレタル留日貴國學生ニ對スル給費制度ノ如キ帝國政府ニ於テモ寧ロ之カ改正

ヲ希望致シ居リ右改正カ實施セラルルニ於テハ兩國ノ混合委員會ヲ設ケテ給費生ノ詮衡ニ當ラシメ選拔留學生制度ノ如キ之ヲ廢止シ差支無之候條右様御了知相成度此段申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向ツテ敬意ヲ表シ候　敬具

編　注　抹消されているが鉛筆書きで左の欄外記入がある。

支那ノ提議ハ「中国教育文化之用」トアリ　趣旨ハ今一層大ナル理想ヨリ「東方全體ノ文化ヲ研究發揚スル」ニ在リ　支那トカ日本トカ云フ國境ヲ超越セムトスルモノナリ、此趣旨ヲ高調シタシ

（付　記）

汪公使ノ提出ニ係ル日本ノ團匪賠償金返還ニ關スル協定草案ニ對スル我方ノ見解

一、帝國政府ハ恒久性ヲ有スル文化事業ノ本質及中國ノ政情ニ鑑ミ法律ヲ以テ特別會計ヲ設定シ團匪賠償金其ノ他ヲ之カ收入トナシタル次第ナリ故ニ今此ノ制度ニ根本的變更ヲ加フルハ文化事業ノ基礎ヲ動搖セシメ其ノ目的達成上支障大ナルモノアリト思惟ス加之所謂汪出淵協定ヲ基礎トセル各般ノ東方文化事業ハ既ニ其ノ緒ニ着キ一九二二年末以降ノ收入ハ概ネ之カ支出ヲ了セリ故ニ中國政府ノ提案ニ應スルハ徒ニ發達ノ過程ニ在ル文化事業ノ萌芽ヲ凋枯セシムルモノナリト思考ス

二、汪出淵協定ヲ基礎トシテ既ニ一度成立ヲ告ケタル中日混合委員會卽チ東方文化事業總委員會及同上海委員會ハ委員長及委員ノ半數ヲ中國人トスル組織ニシテ前記協定ニ掲ケラレタル事業ノ遂行上中國側ノ希望ヲ充分ニ尊重セムトスル趣旨ニ外ナラス然ルニ此ノ既成事實ヲ無視シ中國政府ノ獨自構成スヘキ委員會ニ本邦人ヲ聘任セムトスル中國政府ノ本提案ハ前項ノ提案ト共ニ著シク非協調的ナルヲ遺憾トス

三、敍上ノ理由ニ依リ本項ニ就テ考慮ノ餘地ナキハ多言ヲ要セサル所ニシテ營利建設事業ニ投資シ其ノ收益ヲ以テ文化事業ヲ行ハントスルカ如キハ恒久性ヲ有スル該事業ノ基礎ヲ動搖セシムルモノト認ム

四、中国留學生ニ對スル學費補給ニ關シテハ特ニ一ノ中日混合委員會ヲ設ケテ籌劃決定セシムルコトヲ希望ス尚右實施ヲ俟ツテ選拔留學生制度ハ之ヲ廢止シ差支ナシ

853　昭和5年7月29日　在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛

東方文化事業が中国側の宣伝する所謂文化侵略等の言い掛りに口実を与えないよう意見具申

機密公第一五九號　（8月9日接受）

昭和五年七月二十九日

在支那

臨時代理公使　重光　葵〔印〕

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

對支文化事業ニ關スル件

曩ニ國民政府ヨリ對支文化事業協定及交換公文改訂方ニ關シ申出ノ次第アリタルハ御承知ノ通ナルカ右改訂要求ハ隨分極端ナルモノニテ我方トシテ之ニ應スヘキ筋合ニ非ルコト申ス迄モナク從テ本件ニ關スル日支間ノ妥決ハ支那側ノ態度ニ根本的變更ナキ限リ近キ將來ニ於テハ先ツ以テ其ノ望ナカルヘシト存スル處唯タ茲ニ注意スヘキハ支那側トシテハ右未解決ナル間ハ必スヤ所有ル機會ヲ捉ヘ支那一流ノ惡宣傳ヲ擅ニスヘキコトニシテ爲メニ文化事業ノ遂行ニ故障ヲ來ス虞アルノミナラス文化事業自体ノ爲メ兩國間ニ不愉快ナル空氣ヲ釀成スルカ如キ奇現象ヲ呈シ延イテハ一般國交上ニモ不利ナル影響ヲ招來スヘキコト必スシモ杞憂ト云ヒ得サルヘシ現ニ㈠客年岸上博士ノ長江魚族調査ニ對スル支那側ノ態度㈡古文書國外輸出禁令㈢學校、學術團體等ノ日本視察旅費補助金受領差止ニ關スル教育部命令㈣本邦留學支那學生ノ學資補助金差止ニ關スル教育部命令㈤同文書院學生ノ支那内地旅行ニ對スル支那側ノ態度等ハ從來既ニ右傾向アルコトヲ示スモノト云ハサルヘカラス

敍上ノ次第ナルニ付現行取極ノ運用タル具体的施設ニ付テハ支那側ノ態度ヲモ參酌シ現實ノ情勢ニ應シナルヘク支那側ニ彼レ是レ口實ヲ與ヘサル爲メ從來ノ方法ニ適切ナル改革ヲ加フルコト事宜ニ適スト思考ス而シテ右改革ニ付テハ尚ホ愼重攻究ノ必要アルモ差當リノ措置ニ關シ本官一應ノ思付ニ依レハ從來トモ支那側カ宣傳シ居ル所謂文化侵略等ノ云ヒ掛リニ備ヘ又一面ニハ我方ニ於テ文化事業ノ資金ヲ補助其他ノ名義ヲ以テ濫費シ居ルヤノ口實ヲ與ヘサラムトスル趣旨ヲ以テ

㈠邦人學校、學術團体等ニ支給スル支那視察旅費等ノ補助ヲ全廢スルコト

㈡支那人學校、學術團体等ニ對スル日本視察旅費等ノ補助モ同様全廢スルコト

㈢支那留學生ニ對スル學資補助ノ如キモ出來得ル限リ嚴格ニ取扱フコト

㈣個人ニ對スル研究費ハ之ヲ打切ルコト

等トシ一方ニ於テハ

㈠圖書館、研究所等物的設備ノ充實ニ一層力ヲ溢（ママ）クコト

㈡各種研究ニ對スル補助ハ前項ノ如キ物的設備其他研究機關ノ充實ニ依リ間接ニ個人研究者ノ利便トナルカ如キ方法ヲ用フルコト

適當ナルヘク要スルニ資金使用ヲ目立タサル方法ニ依ルコトトシ止ムヲ得サレハ日本側一方的ニテ實效ヲ收ムルコトトスル方可然右等方法ニ依ルモ支那側ノ宣傳ハ依然トシテ存續スヘキモ少ク共從來ノ方法ニ比シ多少トモ支那側ヲ刺戟スルコトヲ避ケ得テ文化事業關係事務ノ處理ニ便宜カト思料ス敍上ノ次第ニ付テハ過般坪上部長來滬ノ節卑見ヲ開陳シ置キタルカ最近ノ事態ニモ顧ミ右改メテ申進ス

本信寫送付先　北平　南京

854　昭和5年9月24日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

英国公使が義和団賠償金返還に関する公文交換を了したとのヒューレットの談話について

南　京　9月24日後発

本　省　9月24日後着

第六八九號

「ヒューレット」ノ本官ニ語ル所ニ依レハ「ランプソン」公使ハ廿二日夜王正廷トノ間ニ團匪賠償金ニ關スル公文ノ交換ヲ了シ廿三日汽船ニテ赴滬セルカ廿九日上海ヨリ軍鑑（艦カ）ニ乘シ北上スル豫定ニテ尚右交換公文ハ英國議會ノ協贊ヲ經タル上效力ヲ發生スル筈ナル趣ナリ

上海、北平、奉天ニ轉電セリ

855　昭和5年10月17日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

東方文化事業に関する現行取極を廃止し日本分義和団賠償金を英中間の同賠償金処分条件に倣う方針との情報について

南　京　10月17日前発
本　省　10月17日後着

第七五七號

諜報者ノ報告ニ依レハ十五日政治會議外交組ハ㈠日本ノ對支文化事業ニ關スル日支間取極ヲ廢棄シ㈡日本分團匪賠償金ハ大体英支間團匪賠償金處分ニ關スル取極條件ニ倣ヒ處分スル方針ヲ以テ日本側ト交渉シ㈢文化事業部ノ支那留學生ニ對スル學費補給ヲ停止スルコトニ決定セル趣ナリ右聞込ノ儘

上海、北平、奉天ニ轉電セリ

856　昭和5年12月(11)日　在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

王外交部長に義和団賠償金問題については何等回訓方予期しない旨回答について

南　京　発
本　省　12月11日前着

公第一二〇三號

十日王部長ニ面會ノ際王ハ漢口租界回收團匪賠償金ノ問題ニ付本國政府ヨリ何等カ意思表示アリタルヤト問ヒタルニ付（尤右賠償金問題ハ主トシテ汪公使ヲ通シ爲サレタル處ナルカ）本官ハ租界問題ハ兎モ角賠償金問題ニ付テハ何等回訓ヲ豫期シ居ラス尚租界問題ニ對スル本國政府ノ實質的意思表示アル迄ハ幾分ノ時間ヲ要スルナラムト答ヘ置キタリ

北平、奉天、漢口ニ轉電シ、上海、南京ヘ暗送セリ

857　昭和5年12月24日　谷亜細亜局長　坪上(貞二)文化事業部長　汪中国公使　会談

東方文化事業、義和団賠償金返還問題に関する第一回非公式意見交換覚書

付記一　十一月五日亜細亜局
「団匪賠償金ニ関スル件」

二　昭和六年一月九日
「文化事業ニ関スル第二回非公式意見交換ノ件」

三　昭和六年一月十日発幣原外務大臣より在中国重光臨時公使宛電報第一四号

東方文化事業義和団賠償金返還問題に関する非公式協議経過通報

東方文化事業ニ關スル汪公使、谷亞細亞局長
坪上文化事業部長非公式意見交換ノ件

豫テノ打合ニ依リ十二月二十四日十二時半ヨリ東京會館ニ會合シ午餐旁非公式意見ノ交換ヲ行ヘリ其ノ要領左ノ通

汪公使ハ先ツ過般成立セル團匪賠償金ニ關スル中英協定ノ日文譯ヲ手交シ國民政府ハ右協定中ニアル如キ中國委員會ニ團匪賠償金ヲ讓渡シ右委員會ノ決定ニ依リ各種事業ヲ行ヒ度意向ヲ有スト述ヘタルニ付谷及坪上ハ交々日本ノ東方文化事業ハ文化系統ヲ異ニスル英米ノ對支文化事業ト根本ニ於テ出發點ヲ異ニス同一文化系統内ニ屬スル兩國カ東方固有文化ノ組織的研究並發揚ヲナスハ兩國共同ノ責務ニシテ本事業ハ國境ヲ超越シタル崇高ノ目的ヲ有スル次第ヲ述ヘ英米式ノ功利主義的立場ヲ取ル能ハサル所以ヲ縷述セル所汪公使ハ自分ハ文化事業ニ關スル現行協定ノ締結者トシテ其點ハ充分承知シ居ルモ何分本件ハ國民黨カ在野時代ヨリ反對シ居ル所ニシテ今日政權ヲ取リタル以上實行セサルヘカラサル國是ノ一部タリト述ヘタルニ付反對ノ根本理由ハ何レニ在リヤト反問セルニ結局文化侵略ノ名ニ囚ハレ居ルニ過キサルヘシトノ答ナリシヲ以テ明治維新前日本カ中國文化ヲ取入レタル歴史並研究ヲ主トスル本事業ノ性質ヲ述ヘテ其謂レナキ所以ヲ縷述セリ

汪公使ハ日本カ議會及關係各方面ノ反對ヲ押切リ根本的改正ヲ企ツルコトノ困難ナルハ自分モ之ヲ知ル斯クテ兩國カ主義上異ナル主張ヲ固執スル以上其解決ハ至難ト云ハサルヘカラス依テ自分ハ今日ノ合作主義（兩國混合委員會ノ協力主義）ニ代フルニ分作主義（資金ヲ折半シ中國ニ於ケル事業ハ中國之ヲ行ヒ日本ニ於ケル事業ハ日本之ニ當ル案）ヲ提唱セントス（此點ハ曾テ汪公使カ有田亞細亞局長ニ私案トシテ提議セル所ト同シ）トテ我方ノ意見ヲ求メタルニ付合作主義ニ依ル協力カ何故ニ行ハレ難キヤ其理由ヲ明ニセサレハ分作主義可否ノ論ニ移ルヲ得スト應酬セリ

汪公使ハ分作主義ニ依ル能ハサル場合他ニ二ツノ案アリ㈠ハ兩國ヨリ文化事業ニ關スル非公式審議委員ヲ任命シ新協定案ヲ作成セシムル案ニシテ㈡ハ日本政府ヨリ現行協定ノ廢止ニハ同意スルモ賠償金ハ之ヲ返還スル能ハストノ意志表示ヲナス案ナリ㈠ハ大内氏ノ考ヘナルモ自分ハ該委員ニ

依リ協定成案ヲ作成スルコトヲ得ルヤ大ニ疑問ナリト思惟ス依テ日本政府ハ㈠案ニ依ル意向ヲ有スト自分ヨリ國民政府ニ電報スルコトトシテハ如何ト諮リタルニ付本會合ノ非公式的ナルコト及㈡案ハ破壞的結果ヲ招來スルノ虞アルコトヲ指摘シテ其不可ナルコトヲ述ヘタル處汪公使ハ國民政府ヲ反省セシムル爲ニハ一應㈡案ヲ採用スルコトモ或ハ必要ナルヘシト思惟ス自分ハ國民黨員ニ非ス又國民黨ハ目下一國一黨主義ニテ外交官ノ如キ一ノ技術官ト見做シ居レハ純理論ヲ以テ黨議ヲ動カスコト困難ナリ今回國民黨顧問トナラルルコトニ決定シ居ル副島博士ノ意見トシテ國民政府ヲ動カスカ如キコト最モ時宜ニ適スト思考スト述フル所アリタリ

終テ日支關係ノ大局論ニ就キ談ヲ交ヘ次回會合ハ明春一月六日以後可成早キ機會ニ於テ公使館ニ於テ開催スルコトニ打合セ散會セリ

（付記一）

團匪賠償金ニ關スル件

昭和五年十一月五日汪中華民國公使谷亞細亞局長ヲ來訪本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ最近英支間ニ協定成立シ英國分團匪賠償金ハ中國政府ニ返還セラレ同政府ハ英支人（過半數支人）ヨリ成ル管理委員會ヲシテ之ヲ鐵道其他ノ生產事業ニ投資セシメ其ノ利潤ヲ教育事業ニ使用セシムルコトトシ一方右投資鐵道事業等ニ要スル材料ハ全部英國ヨリ購入ノコトトシ倫敦ニ購料委員會（過半數英人）ヲ組織シ中國公使、鐵道部代表等之ニ加ハルコトトナリ居レリトテ新協定ノ内容大略ヲ說明シタル上日本ノ團匪賠償金返還カ法律變更等ノ困難ヲ伴フコトハ充分承知シ居レルモ中國側ノ希望モ是亦極メテ熾烈ナルモノアリ殊ニ英米等カ既ニ寬容ナル態度ニ出テ居ルニ顧ミ日本モ何等カ中國側希望ニ副フ如キ措置ニ出テラレ度中國側モ從來ノ主張ノ如ク一概ニ賠償金返還ヲ要望セサルモ少クトモ之ヲ日支人ヨリ成ル委員會ニ移讓セラレンコトヲ提議スルモノナル旨述ヘ尙同公使私見トシテ本問題ニ付同公使、文化事業部長及亞細亞局長ノ三者ニテ非公式討議ヲ爲シ何等適當ノ解決辨法發見ニ資スルコトト致度旨附言セルニ付谷局長ヨリ右ハ篤ト上局ニ傳達シ置クヘキ旨應答シ置キタリ

本會談錄末段汪公使、文化事業部長、

亞細亞局長ノ間ニ本件解決辨法發見ノ爲非公式討議ヲ行ハントスル同公使提議ハ之ヲ應諾シ可然ヤニ存ス

坪上部長

（谷局長承諾）

（付記二）

文化事業ニ關スル第二回非公式意見交換ノ件

約ニ依リ第二回會合ヲ一月九日零時半ヨリ民國公使館ニ開キ午餐ヲ共ニシ汪公使ト谷亞細亞局長、坪上文化事業部長トノ間ニ懇談ヲナセリ要旨左ノ通

文化事業ニ關シ日本側ニ何等考案ヲ見出サレシヤト汪公使ヨリ切出シタルニ付日本側トシテハ文化事業ノ中心事業タル研究所ニ關シテハ中國ノ意志ヲ尊重シ中國人ヲ委員長トシ兩國ヨリ同數ノ委員ヲ任命シ居ル一種ノ國際委員會ニ權限ヲ委任シアルヲ以テ其委員會ヲ活動セシムル方法ヲ講スルヲ以テ先決問題トスヘク又東方ノ精神文化西進時代ニハ特ニ協力ヲ緊要トスト答ヘタル處汪公使ハ然ラハ日本側ノ意向ハ局部修正ニハ應スルモ協定ノ全部的改廢ニハ不同意ナリヤト質問セルニ付其通リニテ根本問題ニ關スル全部的修正ノ討議ハ其時期ニ非ラス殊ニ此ノ際日華間諸案件中ヨリ本件ノミヲ摘出シテ解決ヲ急クカ如キハ到底我國論ノ許ササル所ナリト應酬セルニ汪公使ハ然ラハ委員會附託案ハ如何ト言ヒシニ付此際兩國政府任命ノ公式委員ニ文化事業ノ一般的審議ヲ附託スルコトハ世間ノ耳目ニ聳動スルノミニテ實效擧カラサルヘシト答ヘタルニ汪公使ハ然ラハ他ニ名案モナキニ付日本政府ハ協定ヲ廢止シ單獨ニ文化事業ヲ行フトノ意志表示ヲセラレテハ如何トテ自己ノ苦衷ヲ訴ヘタルニ付東方文化事業ハ兩國民共通ノ責務ニ屬スル恒久的事業ニシテ崇高ノ目的ヲ有スルニ付協力主義ニ依ル事業ヲ破壞シ又ハ功利主義的政策ノ具ニ供スルカ如キハ斷シテ不可ナリ本問題ニ對シテモ充分ノ忍耐ト勇氣ヲ以テ當ルノ必要ナルコト並民國カ建設的革新ニ成功スルニ於テハ本問題ハ自然ニ解決ノ途發見セラルヘキコトヲ說キタル所公使ハ自分トシテハ胡漢民、戴天仇、王正廷、王寵惠及蔣夢麟（最近教育部長ノ交迭ニ依リ高魯トナル）ヨリ成ル文化事業處理委員會ノ主張ヲ體シテ昨年來何トカ打開策ヲ講シ度シト考ヘ居リ外交部ニ對シテモ交涉ノ結果ヲ報告スル義務

アリトテ公式委員附託審議案ニ同意ヲ求メタルニ付兩國ヨリ非公式委員ヲ選定シ内協議ヲ爲サシムル程度ナラハ差支ナカルヘキモ其時期、場所等ニ付テハ考慮ヲ加フルノ要アリ依テ熟考ノ上兩三日中ニ再ヒ話合ヲナスコトニ申合セ散會セリ

尚右懇談中汪公使ハ現協定調印者トシテノ苦衷ヲ訴ヘ南京政府説得方ニ付重光代理公使ノ盡力ヲ煩度旨懇請スル所アリタリ

（付記三）

本　省　昭和6年1月10日後8時56分発

第一四號

團匪賠償金問題ニ關シ中英協定ノ成立後汪公使ヨリ亞細亞局長ニ對シ日支人ヨリ成ル中國委員會ニ賠償金移讓方ヲ提議シ尚私見トシテ同公使、亞細亞局長、文化事業部長間ニ非公式意見交換方ヲ申出テ來リタルニ付年末年初ニ懸ケ二回ニ亘リ右非公式會合ヲ催サシメ我方ヨリ東方文化事業ハ文化系統ヲ異ニスル英米ノ夫レト全然性質ヲ異ニシ純東方文化ノ研究發揚ヲ第一義トシ居ルコト從テ本事業ハ兩國民共通ノ責務ニ屬スル恒久的事業ニシテ國境ヲ超越シ政策ヨリ獨立シ政局ノ影響ヲ受クルコトナク遂行セラルヘキ性質ノモノナルヲ以テ現制度ニ根本的變改ヲ加フルノ意圖ナク又議會乃至國論モ之ヲ許ササルコト東方精神文化ノ西漸時代タル今日ニ於テハ特ニ両国ノ協力ヲ緊要トスルコト並本事業ヲ目シテ文化侵害又ハ日華親善ノ道具ナリト云フカ如キハ何等意味ヲナスモノニアラサルコトヲ縷説シタル處汪公使ハ國民黨ハ在野時代ヨリ現行協定ニ反對シ來リタル關係上何等カノ解決方法ヲ見出スノ要アリ自分ハ分作主義（資金ヲ折半シ兩國各文化事業ヲ行フ）ヲ妥當ナリト考フルモ日本側ニ於テ同意ナキ以上已ムヲ得サルニ付兩國任命ノ特別委員ニ附託審議セシムルコトトシテハ如何ト諮リタルニ付我方ハ本案カ世間ノ耳目ヲ聳動スルノミニテ實蹟ヲ擧クルコト困難ナルヘキニ付同意シ難シト應酬シタル處汪公使ハ國民政府ニ對スル自已(ママ)ノ立場ノ苦痛ヲ訴ヘタルニ付本件ニ付テモ他ノ問題ト同様充分ノ忍耐ト勇氣トヲ以テ臨ムノ必要ナルコト並國民カ建設的革新ニ成功シ日華関係改善スルニ於テハ自然ニ解決ノ途發見セラルヘキコトヲ述ヘタル處公使ハ自分ハ日本ノ態度ヲ充分了解シ居ルモ國民政府ヲ説得スルコト困難ナルノミナラス本件ニ關スル交渉ノ結果ヲ政府ニ報告スルノ義務アリトテ委員附託審議案ニ同意ヲ求メタルニ付兩國ヨリ非公式ニ委員ヲ選定シ内協議ヲナサシムル程度ナラハ差支ナカルヘキモ其時期場所等ニ關シテハ考慮ヲ要スト回答シ置キタリ

右會談中汪公使ハ現協定調印者トシテノ苦衷ヲ訴ヘ國民政府説得方ニツキ貴代理公使ノ御盡力ヲモ煩ハシ度シト懇請セルニ付其含ニテ當局者ト應酬シ前段趣旨ヲ敷衍徹底セシメラレ度尚非公式委員内協議案採用ノ場合ニ於テモ我方トシテハ根本的改正問題ニハ觸レス現在ノ各委員會並事業ヲ夫夫如何ニセハ圓滑ニ運行セシメ得ヘキヤノ點ニ主力ヲ置キ非公式意見ノ交換ヲナサシムル心組ナリ

南京、北京ニ轉電シ總領事ニ轉報アリ度